

創造主礼拝

序論：

黙示録 14:6-12 まで読む。

第一天使の使命には三つの命令がある：

- ① 神をおそれよ
- ② 神に栄光を帰せよ
- ③ 創造主を伏し拝め

これは各時代、述べ伝えられてきた使命であった。

しかし、人類史上最後に特別な力と意味で全世界のすべての人に伝えられなければならない使命である！

- ① なぜなら、その理由は、「神の裁きの時が来たからである」と言っている。永遠の運命が最終的に決定される時にこの使命は伝えられる。
 - ・ 1844 年から伝えられた使命ではある。死んだ義人の裁き「調査審判」が始まったから。
 - ・ しかし、我々は、生ける者の裁きは、黙示録 13 章を見ると、全人類に恐るべき大欺瞞が強制される事件から始まることを学んだ。永遠の運命を決定すべき事件である。人間を恐れ、人間に栄光を帰し、人間を礼拝するように強要する法令が出る。それは近い将来である。

「黙示録 14 章は、最も関心の深い章である。この聖句は、まもなくその意味するところすべてが理解されるであろう(1904 年から未来)。そしてこの黙示録記者のヨハネに与えられたメッセージははっきりとした言葉(叫び声)で繰り返されるであろう」 RH,10-13、1904。

- ② バビロンが完全に倒れるときに伝えられる使命である。それは黙示録 18:1,2 を見ると、「その後」つまり、バチカンの世界支配が成りたつ、その後である。完全にバビロンが倒れる時に「力強い声」で叫ばれる。従って近い将来のことである。
- ③ 黙示録 13 章の獣と獣の像と獣の刻印が全世界に法律をもって強制される時に叫ばれる使命である。バチカンの世界支配が成りたつと神が「大いなる叫び」、大宗教改革運動を送られる。だからと言って、今までセブンスデー・アドベンチスト教会が述べ伝えてきた使命は間違いではない。今述べ伝えるべき使命ではないということではない。いや、かえって今から世の人に警告し、備えさせなければならない使命である。その時が目前に迫っているだけにますます声を大にして叫ぶべき使命である。

では、第一天使の使命の最後の部分について学んでみよう：

「大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを伏し拝め』」。

1. 創造主礼拝の訴え

- ・ 三天使の使命が真の教会に与えられた頃、1844 年に「種の起源」の試論を執筆。
- ・ 進化論は今や全世界の人々に受け入れられている。サタンの大欺瞞である。ちなみに、信じがたいもう一つの大欺瞞は、ローマ・カトリックはキリスト教として定着しているばかりでなく、「平和の使者」として賞賛されていることである。
- ・ 今こそ、創造主に人々の心を向ける時である。

- 最後の争闘の問題は「礼拝」である。
- 無神論=共産主義も 1844 年~1848 年、マルクスの『共産党宣言』起草。
- 第一天使の使命 対 無神論、進化論(創造主否定論)、ヒューマニズム(人道主義)
 - 6 日間でこの世界を創造された。VS 地球の年齢 45 億年、人類は 2 5 億年前に、下等生物からだんだんと長い進化の過程を経て人間に進化。
 - 種類に従って創造された。VS 種類を超えて進化。「獲得形質」(獲得した特徴は遺伝するという学説のまちがい。

901 Mice Without Tails!



ラマルキズム

Weismann cut the tails of white mice in an attempt to prove that their babies would be born with short or no tails!

ラマルキズム

ラマルクの学説に基づく進化思想。獲得形質の遺伝という考え



In 1891, a scientist by the name of August Friedrich Weismann conducted an interesting experiment with mice.

He was trying to prove a theory called "Lamarckism" which still teaches "inheritance of acquired characteristics."

The theory declares that birds living in the water grow webbed feet, etc.

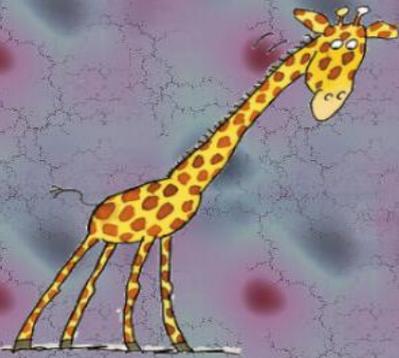
Weismann was greatly disappointed when the babies that were born had tails the same length as other mice. But he continued his experiments.

Eventually he cut the tails off 901 mice in 19 successive generations, yet each successive generation had full-length tails!

Dr. Weismann and Jean Baptist Lamarck, the scientist known for the discovery of "Lamarckism" didn't know that the inherited characteristics of animals was because of DNA coding and not habits or environmental circumstances.

Lamarck taught that giraffes had long necks because they were always stretching to get food from tall trees. Now we know that this just isn't so!

But the theory of "inheritance of acquired characteristics" is still being taught in science textbooks as a major building block of evolutionary "science!"



There are many examples that disprove the false theory of "inheritance of acquired characteristics":

1. Chinese women bound the feet of their infant children for several thousand years, yet the feet of Chinese women today are normal in size.



2. Hebrews circumcised their boys for thousands of years, but never have boys been born automatically circumcised as a result.



3. The Flat-head Indians of the Pacific Northwest bound the heads of their children to give them unusual shapes. After hundreds of years of this practice, their babies continued to be born with normal-shaped heads.



Why do you think our science textbooks continue to teach this false theory? Are we trying to educate our young people or indoctrinate them? Hmmmmm . . .

アメリカの太平洋側北西部 (the Northwest) 《特に Oregon 以北 Rocky 山脈以西》.

「彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり」ローマ 1:22

2. 十戒を掲げる使命

- ・十戒無用論、律法軽視のキリスト教会は偽りの「杯」、福音を全世界に飲ませている。「バビロン＝混乱」と呼ばれるゆえんである。
- ・最後の真の教会は、「神の戒めとイエスの信仰」を掲げる。パウロの福音は「信仰の従順＝服従」に至らしめるものである。ローマ 1:5、16:25、
- ・「信仰の故に義とされるのである。すると信仰の故に、わたしたちは律法を無効にするか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである」ローマ 3:30,31.
- ・十戒の第一条：
出エジプト 20 : 3 「わたしのほかに何のものをも神としてはならない」
- ・天と地と海とその中のなにもものも神ではない。拜んではならない。獣、森羅万象。被造物なんであつても。天使であつても(黙示録 19:10、22:8,9)。まして人間礼拝、法王礼拝は許されない。
- ・今日、哲学、神学、芸術、サタン礼拝-サタンの教会、ニューエイジ、快樂、
- ・「拝金主義」十戒の第一条から第十条へ。貪欲の時代一国と国の争い、今全世界の経済危機を利用して世界政府-新世界秩序を。

3. 安息日に向ける使命

「天と地と海と水の源とを造られたかたを伏し拝め」

- ・「主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた」出エジプト 2:11.
- ・「安息日を覚えてこれを聖とせよ」人類が安息日を覚えていたら無神論者はいなかったであろう。
- ・全世界の国々に **7日目安息日**を覚えていた歴史的証拠がある。だんだん忘れるにしたがって墮落して偶像礼拝、不道徳がはびこる。
- ・安息日は聖なる、「**主の日**」である。日曜日ではない。ローマ・カトリックの二大誤謬の一つ。
- ・安息日の主はイエス・キリストである。ルカ 6:5、マタイ 12:8。従って、「**主の日**」とは日曜日ではなく、7日目安息日のこと。
- ・6日の間は働く、**勤勉の戒め**でもある。

怠慢は最大ののろい：「富と暇ほど人々のほしがるものはない。ところが、これらが平原の町々を滅亡させた罪のもとであった。彼らの無益で怠惰な生活が、サタンのつけねらうところとなり、彼らは、神の形を傷つけ、神よりはサタンに似ていった。怠惰は、人間の陥る最大ののろいであって、非行と犯罪がそれに続くからである。それは頭脳を弱め、知力をゆがめ、魂を墮落させる。サタンは、油断している者を滅ぼそうと待ちかまえている。人間の暇のときは、サタンが、何か魅惑的変装をして巧みに取り入るよい機会である。彼は、人間が何もしないでいるときに近づけば、一番成功するのである」

- ・**安息日は人のため**にあるもので、人が安息日のためにあるのではない。マルコ 2:27。

休みの日、安息の日、重荷を主のもとでおろして休みを得る日。マタイ 11:28-30。

平安—「平和の君」イエスから来る。

- ・獣と獣の像とその刻印を受ける者は昼も夜も**休みが得られない**。

マザー・テルサの晩年は苦悩の葛藤。

- ・「こういうわけで、安息日の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。なぜなら、神の安息にはいった者は、神がみわざをやめて休まれたように、自分もわざを休んだからである。したがって、わたしたちは、この**安息にはいるように努力しよう**ではないか。そうでないと、同じような**不従順**の悪例にならって、落ちて行く者が出るかもしれない」4:9-11.

「**信仰の従順、服従**」=福音、信仰による義の経験が神の民に残されている。自分の業、行いによって義を得ようとする試みから解放されるように神は望んでおられる。

- ・「安息日を聖とせよ」

「あなたはイスラエルの人々に言いなさい、『あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであって、**わたしがあなたがたを聖別する主**であることを、知らせるためのものである』」出エジプト 31:13。

創造主が我々を**再創造**する、**清め**てみ国の世継としてくださる真理を覚えさせる。

4. 安息日が近い将来大争闘の焦点になる!

- ・獣の刻印を受けるか、神の印を受けるか!ローマ法王の権威か、神の権威か。
- ・神の印を受ける者たちは、神の品性が「額=心」に完成する。**創造と贖罪の記念日**である安息日遵守者たちに人間の尊厳が回復される!

「法令が発布されて印が押される時、彼らの品性は永遠に清く、しみのない者となるであろう」

5T216。